短期予報解説資料　２０２６年５月２５日０３時４０分発表

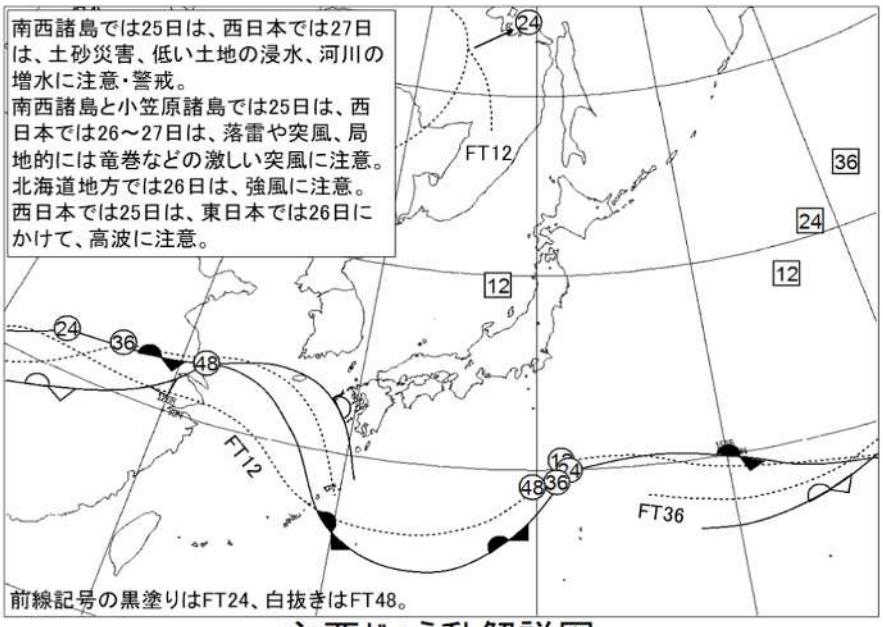
気象庁

１．実況上の着目点

① 前線が、華中～南西諸島付近～南鳥島近海にほとんど停滞。東シナ海では、前線に向かう下層暖湿気が強く、対流雲が発達して活発に発雷。

② 500hPa 5700m付近で-15℃以下の寒気を伴うトラフが北日本を東進。北海道地方中心に雨が降っている。日本海北部の低気圧は上層トラフが先行し不明瞭化しつつあるが、低気圧と日本のはるか東の高気圧との間の北海道地方ではやや強い風を観測。

③ ①の前線と、②の高気圧や日本海の高気圧との間では気圧の傾きが大きく東よりのやや強い風が続き、東～西日本の太平洋側ではうねりを伴い高い波を観測している所がある。



主要じょう乱解説図

２．主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①の前線は、25日はほとんど停滞する。前線に向かう下層暖湿気の影響で大気の状態が非常に不安定となり、激しい雨が降り大雨となる所がある。これまでの大雨により、少しの雨でも土砂災害が発生しやすくなっている地域があることにも留意。南西諸島では25日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、落雷や突風、局地的には竜巻などの激しい突風に注意。小笠原諸島では25日は、落雷や突風に注意。また、1項③の波の高い状態も続く。西日本では25日は、東日本では26日にかけて、高波に注意。

② 26日は北上する水蒸気の流れが大陸東岸を指向するようになり、2項①の前線は日本の南では不明瞭化するが、前線上の低気圧が華中付近から東シナ海に進む。この低気圧は、27日夜にかけて対馬海峡付近に進み、低気圧から四国の南にのびる温暖前線に向かう850hPaの相当温位354K以上の下層暖湿気が西日本に流れ込む。東シナ海の海面水温21～22℃の領域を通る間に地表付近の空気が冷やされることと、上層の気温が上昇することは抑制要因となるものの、下層暖湿気の影響で大気の状態が不安定となり、激しい雨が降り大雨となる所がある。西日本では27日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒し、26～27日は落雷や突風に注意。

③ 26～27日は、500hPa 5640m付近のトラフが中国東北区から千島近海に進み、地上の気圧の谷が北海道地方付近を通過する。気圧の谷の周辺では気圧の傾きが大きくなり、やや強い風や強い風が吹く所がある。北海道地方では26日は、強風に注意。

３．数値予報資料解釈上の留意点　総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

４．防災関連事項［量的予報等］　① 雨量（06時からの24時間）：多い所（100mm以上）はない。② 波浪（明日まで）：関東・伊豆諸島・近畿・四国3m。

５．全般気象情報発表の有無　発表の予定はない。

量的な予報については、今後の状況により変化する場合がありますので、注意報・警報や全般気象情報等に記述する数値を利用願います。